

MITA

2016/11/3

Vol. **58**

水島ポートニュース

Mizushima International Trade Association



第15回岡山県地方港湾審議会水島港部会

Contents

- ・MITA総会開催報告
- ・MITA中国ポートセールス実施報告
- ・水島港コンテナ貨物利用状況アンケート調査結果
- ・～水島港国際物流センター主催～県内の輸出入に係る企業との意見交換会について
- ・中国・韓国で高い人気～岡山県産材の海外への販路開拓の取組み～/岡山県林政課
- ・高松農業高等学校農場長インタビュー「岡山県産ピオーネのコンテナ輸出」
- ・MITA要望活動
- ・水島港国際物流センターのコンテナ補助制度の紹介



MITA総会開催報告

定例総会を岡山市内で開催

〈2016年6月1日〉

6月1日、岡山市内のメルパルク岡山で、第19回の総会を開催しました。

総会には来賓、会員を合わせて134名の方々のご出席を賜りました。

会の冒頭挨拶で、伊原木会長（岡山県知事）は、「私は知事選に挑んだときから、まず水島が岡山県の産業にとって非常に大切であり、海の玄関口である水島港も同じく大切である、ということ唱えてきた。知事就任後は、水島港の整備に全力で取り組んできた。玉島ハーバーアイランドに新たに穀物関連企業が立地することになったのは、その成果の一つだ。水島・玉島の今後の発展にとって大きな投資である。そのための整備については、県は県でしっかりとやり、国にお願いすることは、国にきちんとお願いをしていく。国もいろいろと予算制約がある中で、今回のプロジェクトの緊急性に着目し、推進していただいている。空の窓口である空港も海の窓口である港も、多くの人が利用すればするほど、より便利になり、次のステージが開けてくる。絶えず変化していくのが港の宿命だが、我々はぜひ、水島港を好循環で回していきたいし、その環境は整っている。油断をせずにきちんと努力し、水島港の利用促進を図ってまいりたい。」と述べました。

総会では、岡崎副会長（岡山商工会議所連合会会長）が議長を務め、役員異動の報告に続き、顧問の承認、平成27年度事業報告及び収支決算、平成28年度事業計画案及び収支予算案についていずれも承認されました。

総会後、日本貿易振興機構（JETRO）海外調査部アジア大洋州課の蒲田亮平氏に「東南アジアの貿易動向と広域FTAの最新動向」と題して、TPPの概要と東南アジア地域におけるTPPの影響などについてご講演をいただきました。



開会挨拶をする伊原木会長



会場の様子



ジェトロ海外調査部大洋州課 蒲田亮平氏講演の様子



議長を務める岡崎副会長

MITA中国ポートセールス実施報告

中国ポートセールスを実施

〈2016年7月9日～12日〉

7月9日～12日の4日間、香港及び中国（広州市、上海市）において、水島港国際物流センター（株）の杉副社長を団長とするMITA訪問団10名で、水島港のポートセールスを実施しました。

訪問団は、岡山県木材関連企業がヒノキ製品等の販路拡大を目的に出展した広州市の建博会を視察し、その後のマッチングレセプションで、現地物流企業やジェトロ広州及び日中経済貿易センターを招き、情報交換や水島港利用の検討をしていただきました。

また、上海港を管理する上海市交通委員会を表敬訪問し、知事親書を手交し、上海港との交流促進についてお互いに協力することを確認しました。

そのほか、香港では香港日本通運総合物流センターの巨大な倉庫を見学させていただきました。上海市内では神原汽船（中国）船務有限公司、上海民生輪船有限公司を訪問し、水島港の利用促進等について意見交換を行いました。

さらに、上海市内では、船会社等を招いて「水島港セミナー」を開催しました。同セミナーでは水島港DVDを上映し、水島港の機能強化や整備状況等の説明により利便性をア

ピールするとともに、水島港の集荷対策等についての情報提供を行い、今後一層の水島港の利用を呼び掛けました。



上海市交通委員会(旧 港口管理局)に知事親書を手交



中国建博会(広州)会場となった国際展示場



中国建博会(広州)を視察

「水島港のコンテナ貨物の利用について」アンケート調査を実施しました!

水島港のコンテナ貨物の取扱量は、近年、大きな増減はなくほぼ横ばいの状況が続いています。

このため、コンテナ貨物の取扱量の増加を目的にして、当社では水島港をさらに利用していただくための対策に取り組んでいるところです。

その一環として、本年7月に、県内の輸出入に関わる企業298社を対象に「水島港のコンテナ貨物の利用について」アンケート調査を実施しました。

107社(36%)から回答をいただきましたが、その結果は右図のとおりでした。

この結果、コンテナでの輸出入取引を行っている企業は約50%で、このうち水島港のみを利用している企業は25%であることが分かりました。他港を利用している企業(45%)と複数回答の企業(22%)を合わせると、70%近くの企業が他港を利用している実態も明らかになりました。

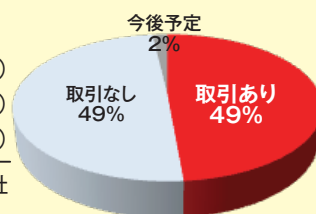
現在、このアンケート結果を基に、コンテナ貨物を扱う船舶代理店と連携しながら企業を訪問し、水島港の最新情報をお伝えするとともに、水島港の利用についてお願いしているところです。

当社は、水島港の港湾運営会社として岡山県から指定を受け、水島港国際コンテナターミナルの管理運営を行っています。このコンテナターミナルは、国際コンテナ貨物を取り扱うために整備された県内で唯一のターミナルです。コンテナ貨物の輸出入に当たっては、是非ともご利用の検討をお願いします。(水島港国際物流センター)

〈アンケート調査結果〉

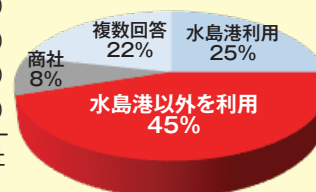
①コンテナ輸出入の取引について

取引あり	52社(49%)
取引なし	53社(49%)
今後予定あり	2社(2%)
合計	107社



②コンテナ輸出入港について

水島港利用	15社(25%)
水島港以外	27社(45%)
商社任せで把握していない	5社(8%)
複数回答	13社(22%)
合計	60社



～水島港国際物流センター主催～

県内の輸出入に係る企業との意見交換会について

水島港の利用促進とPRの一環として、平成28年9月、当社主催により倉敷市児島で岡山県内のアパレル関係事業者の方々と、また津山市で木材関係事業者の方々との意見交換会を開催しました。

意見交換会には、県林政課・県港湾課・倉敷市・津山市の各担当者や港運会社の方々にも参加していただき、活発な意見交換を行うことができました。

この中で、「今回初めて、水島港に韓国、中国、台湾等を結ぶコンテナ航路があることや便数を知った」、「神戸港と比較して水島港は船賃が高いのでは」、「水島港利用の場合の料金提示があれば比較検討したい」などの意見がありました。また、それぞれの業界や事業者の取組状況など貴重な情報交換もできて、有意義な意見交換会となりました。

県内の事業者の方々であっても、まだまだ水島港が周知されていないことを実感するとともに、水島港のPRや情報提供の必要性を痛感しました。

今後とも、いろいろな業界の方々と意見交換を行い、水島港の利用促進とPRを努めてまいります。

(水島港国際物流センター)



会議風景(津山市)



会議風景(倉敷市)

中国・韓国で高い人気

～岡山県産材の海外への販路開拓の取組み～

岡山県は美作地域を中心に、西日本有数の木材集積・加工地として発展しており、ヒノキの素材生産量は平成24年度から4年連続で日本一となっています。年々、利用可能な森林資源は充実していますが、住宅着工戸数の減少に伴う木材需要の低迷が懸念されています。このことから、県では、新たな木材需要の創出を目的に、県内の木材団体が取り組む海外への販路拡大の取組に対する支援を行っています。

(一社)岡山県木材組合連合会は、平成24年度、輸出に関心がある会員企業を対象に「岡山県産材販路推進協議会」を設立し、岡山県では輸出促進に関するセミナーの開催や、中国・韓国で開催される住宅建材の展示商談会への出展等に対する支援を行っています。展示商談会を契機に輸出を開始し、製造施設の増強を図った企業もあることから、協議会への新規加入、展示商談会への参加企業も増えており、輸出に対する気運が高まっているところです。

こうした中、津山圏域の木材産業関連業者が組織する「美作材輸出振興協議会」が平成27年9月に設立され、本年度、ヒノキ人気が高い韓国において販路開拓の強化、市場調査

等を目的とした常設アンテナショップを開設し、県は津山市と連携した支援を行いました。中国では日本の建築基準法に当たる改正作業中の「木構造設計規範」に日本産樹種や軸組構法の追加が見込まれ、韓国においてもヒノキに対する人気が高まっていることから、両国への輸出货量は増加傾向で推移すると見込んでおり、今後も木材業界の輸出に対する効果的な支援を行うこととしています。

(岡山県林政課)



韓国での展示商談会の商談状況



同 展示販売状況

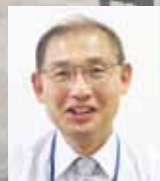


韓国アンテナショップ外観

MITAとしても、今後の木材輸出動向を注視し、可能な限りの支援をしていきます。

「岡山産ピオーネをコンテナ貨物で輸出！」も夢ではない ～農業高校で水島港を考える～

水島港の利用促進に向けた取り組みを考えるうえで、新しい視点から港を見つめてみたい。その一つが「農業の視点」である。農業を取り巻く環境変化は水島港にとっても共存の可能性というチャンスを生むかもしれないからだ。今回は「農業高校で水島港を考える」である。岡山県立高松農業高等学校農場長の廣田耕治先生と考えた。



廣田耕治先生



高松農業高等学校

●水島港は農業と共存する時代へ

【MITA】黒木亮作「鉄のあけぼの」という経済小説がある。経済大国・日本を創り出した男、川崎製鉄（現JFEスチール）社長の西山弥太郎を描いた作品は、水島に製鉄所を建設した経緯を生々しく描いており、それが岡山県を「農業県から工業県へ」と変えた出発点でもあった。水島コンビナートの重要な機能として水島港は大きな役割を果たし、岡山県民の所得を大きく底上げした。

多い「JAびほく」は、海外販売を目指して選果場を8ヶ所から2ヶ所に集約して効率化を図った。また、選果員が代わってもぶどうの色付きなどで同じ等級判断ができるように機械化も進めた。2016年の海外への売り込み目標を13億5千万円と掲げ、福岡中央卸売市場に自慢のピオーネを出荷し、香港への輸出実績のある福岡大同青果と手を組んで海外に打って出た。

る立場（価格コントロール）になれるようにと指導している。そのためには、まず自分で育てた作物の価値を自分でお客様に説明できないといけないし、そうしたコミュニケーション能力を培うため、地域のイベントや県内各所の催しに参加するようになった。こうした経験が、卒業後、価格交渉は難しいものではないという印象を持たせ、抵抗感無く価格提示できる人材育成につながると思う。「JAびほく」の挑戦は農業高校の生徒にとっても注目し価値があることだと思う。

【廣田】私は北九州市の門司の出身で海峡の街、門司港を見て育ちました。かつては東洋一の貨物量で活気があり、九州鉄道起点の街として賑やかだったそうです。今では門司港レトロで観光地となりましたが、やはり「港」は地域の産業と結び付いてモノが動いて繁盛するものだと思います。

10月初めには、JAびほくとJAあしんは合同で視察団を派遣し、香港でのピオーネの売り込みに取り組んだ。そこで見たのは価格である。台湾産の8倍の値段でも売れる。品質に満足して、買ってもらえる香港の市場は魅力的だ。びほく農協ぶどう生産部会も「単価を底上げしたい」というのが本音のようだ。輸送・コスト・棚持ちの問題など課題は多いが、日本の人口が減少する時代に「輸出は重要」と断言する。そのためには、鮮度を保ちながらいかに輸送できるかが一番大事なことであり、ブランド力を高め、安定して供給することが必要となる。

◎香港におけるぶどうの価格

台湾産	約700円
岡山産	約1800円～5600円

●水島港からピオーネを輸出することが夢
【MITA】岡山県農林水産部対外戦略推進室の西田豊室長は、「2015年、日本全体のぶどうの輸出は約900トンあり、その4割が岡山産。岡山産は台湾へ238トン、香港へ104トン輸出されている。」と現状を話す。東京や大阪の市場に出荷されたものが台湾や香港の業者に買い取られることもあり、生産者番号を付けた箱詰めピオーネを香港の果物屋の店頭で見つけることもある。こうした状況を何とか改善できないか。西田室長は「岡山県には、生産者はいくらもいない」とビジネス文化の課題を指摘する。7月、今年から就航した岡山・香港線の旅客機の貨物室を利用して果物の輸出実験を実施して成功した。岡山空港や水島港を県産ぶどうや桃の輸出に役立てる取り組みが待たれる。

また、ベトナムやミャンマーに次々と巨大物流セン

【MITA】岡山県は、農業県から工業県への脱皮を目指して一定の成果を上げて既に半世紀余の歳月が流れたが、今、水島港は農業と向き合い、共に協力する時代を迎えているといえるのではないだろうか。そのモデル的な事例が県産青果物の輸出、特に桃やピオーネの海外販売である。

●ピオーネを売り込む動き

【MITA】県内ピオーネの作付面積・生産量が最もターを開設する両備トラスポートカンパニー、カンパニー長の田邊学さんは「台湾や香港での販売者（輸入者）が見つければ、喜んで貿易代行サービスでサポートしたい」と語る。

【廣田】農業高校の現場でも起業している事例が全国で見られる。NPO法人や会社の設立、従来の農業教育の枠を超えた販売活動をする事例があります。本校は合同会社「高農くすのきカンパニー」を設立しましたが、福岡農業高校はNPO法人設立で内部留保を厚くしている。青森県の五所川原農林高校は模擬会社を設立して日立の情報システムで農場の管理をしながら、自分たちのリゾを海外へ売り込もうとしている。高校生にとって食物検疫はアルプス山脈のように立ちはだかるものだが、今後は海外へ目を向ける若者が着実に増えると思う。米国のコンテストで日本の牛肉が優秀と認められているように、「鮮度」「良質」を堅持して海外展開することがTPPへの対策であり農家の収益を高めることになる。「JAびほく」のピオーネの挑戦も道を拓くものと期待している。

◎ピオーネの鮮度の維持

船便	1週間程度
空輸	最速2日で店頭へ
	コスト高

【MITA】「JAびほく」が持ち込んだ福岡市場。博多港からは、青果物の呼吸作用を抑えるCAコンテナ※注1を用いてイチゴの高級品種「あまおう」を台湾に輸出している。こうした事例は水島港の新規の集荷に参考（※注2）となる。

【廣田】総社では赤米に取り組む「レッドライスカンパ

ニー」、岡山市御津町の「みつの里」など米に取り組む事業所がある。生産者と物流業者、販売者が連携して収益を上げること考えるならば、海外に売ることが重要で、この生・配・販の連携のなかに水島港が位置付けられるかが勝負。農業現場にはいくらでも農畜産物・加工品の貨物はあるのだから。学校現場で農業することや経営感覚を持った人材育成に努めているが、卒業して自分が育てた作物をどのように販売するかを最初から全てをその子に任せずとも成功しません。ルールを敷いてもらうというか、助走を経験させてもらうことで驚くほど伸びます。学校近くのJR備中高松駅近くで、商社勤務を辞めてイチゴ農家を始めた人がいます。イチゴ1粒が数百円、それを輸出しています。自身が商社マン、友達も商社マン、独自のノウハウとネットワークを駆使しているのでしょう。子どもたちは無限の可能性を持っている。こうした周辺の変化や新たな取り組みが刺激となつて、輸出にも挑戦するでしょう。人口減少時代、国内消費は増えることはありません。水島港から岡山の自慢の農畜産物を輸出したいですね。

【MITA】ありがとうございました。

【参考】RRIブッキングニュース特集「ぶどうで勝負」（平成28年10月6日・7日放送）
※注1：CA（Controlled Atmosphere）
青果物の呼吸作用が品質低下の要因となることから、呼吸を抑えるように、コンテナ内の環境をコントロールして運ぶことで鮮度保持が可能。
※注2：リンゴの呼吸量「冷却（0℃）貯蔵1/10」「CA貯蔵1/20」。

※注2：博多港長期構想「アジアの中で輝きを放つオアシスのみなとづくり」平成24年8月に博多港長期構想検討委員会が策定。将来像と戦略を「物流」「人流」「環境」の観点から示す。特に、物流では、「アジア・世界へつながる元気なみなと」となるための方策として個性的な物流戦略、九州の産業を応援する港となるためイチゴあまおう、なし、ぶどう、温州ミカン、ユズ、水産加工品、牛乳等の扱いを位置付けている。農林水産物・食品の輸出の全国シェア19%を目指す。



自分たちが作った農畜産物を生徒自らが販売する。

MITA要望活動

国への要望活動を実施

MITAでは国土交通省に対し要望活動を実施しました。7月28日、丹田要望団長（JFEスチール株式会社西日本製鉄所倉敷地区総務部長）以下17名のMITA要望団は、国土交通省中国地方整備局川嶋副局長他9名の幹部への要望活動を実施しました。丹田団長が各要望項目の内容について詳細な説明を行いました。川嶋副局長からは、「地域経済への貢献度も極めて高い水島港の重要性に鑑み、今後も整備に努めてまいりたい。」との挨拶をいただきました。

また、8月4日には、17名からなるMITA要望団が、顧問である橋本岳衆議院議員に同行いただき、国土交通省本省への要望活動を実施しました。

この日は丹田団長が菊地港湾局長に直接要望書を手渡し、要望項目の内容について詳細な説明を行いました。

さらに武藤国土交通事務次官、田端国土交通審議官、毛利国土交通審議官などにもそれぞれ要望書を直接手渡しました。

併せて、衆議院・参議院両議員会館において県選出国会議員の方々に対して要望内容をお伝えし、今後のMITA

Aに対する支援をお願いしました。今後もMITAでは、水島港の発展のため要望活動を実施してまいります。

要望項目

- ① 国際バルク戦略港湾としての整備促進
- ② 玉島東航路の整備促進
- ③ 備讃瀬戸航路の航行環境改善
- ④ 埠頭の円滑な管理のための施設整備支援制度の創設（玉島ハーバーアイランド4号埠頭）



中国地方整備局での要望活動の様子



国土交通省菊地港湾局長への要望活動の様子



MITA要望書

水島港国際物流センターのコンテナ補助制度の紹介

コンテナ貨物の 輸出経費補助制度について

水島港国際物流センター(株)では、水島港国際コンテナターミナルの利用増加を目指し、会社独自の補助制度を創設して営業活動を展開していますので、ご紹介します。

海外での販路拡大を目的として、岡山県内の事業者が共同して、中国や韓国で開催される見本市や展示会に出展する機会が増えています。

そこで、同社では、製品サンプルの輸送費用を補助する制度を創設し、利用を幅広く働きかけています。商談が成功し、将来、製品等を輸出する事となった場合に、水島港を利用するきっかけとなることを狙ったものです。

海外への新たな事業展開をご計画の際には、同社へ

是非ご連絡、ご検討ください。

水島港国際物流センター(株)
電話 086-523-6211

輸出経費補助制度の概要

- 補助対象
専ら岡山県内の事業者で組織する団体が、水島港の国際コンテナ航路を利用して、海外で開催される見本市や展示会に製品等をコンテナで輸出した場合、当該団体に対して輸出経費の一部を補助
- 補助期間
平成28年7月1日～平成31年6月30日までの3年間
- 補助金額
事業者団体が負担した経費の半額(ただし、1コンテナ当たり10万円が限度)